



にぎわい東北

— つなげよう、ふるさとのチカラ



2020年2月27日
イオン株式会社

イオンは変わらず全国の皆さまと東北の復興・創生に取り組みます 東北のさらなるにぎわい創出を目指して

2011年3月に東日本大震災が発生してから、まもなく9年になります。イオンは、「にぎわい東北—つなげよう、ふるさとのチカラ」を合言葉に、交流型の支援活動や植樹、地域製品の拡販、商業施設における防災対策の強化などのさまざまな活動を通じ、東北の復興・創生、にぎわい創出に向けて、地域の方々とともに取り組み続けています。

2012年にイオン労使で立ち上げた「イオン 心をつなぐプロジェクト」では、2021年までの10年間に、のべ30万人の従業員によるボランティア活動参加、東北沿岸部での合計30万本の植樹を目標に掲げて取り組んできました。

ボランティアについては、時間の経過とともに変化する各地域のニーズに対応しながら活動を続けた結果、2018年8月、目標より3年早く参加者が30万人を突破しました。本年も全国のグループ会社の従業員がそれぞれの拠点や東北各地で行う支援活動を通じ、年間3万人のボランティア参加を見込んでいます。

植樹活動については、2019年3月に目標の30万本を達成しました。本年は東北の8カ所で植樹を実施する予定です。

同プロジェクトのもと2016年にスタートした「イオン 未来共創プログラム」では、これまで続けてきたボランティア活動などにより培ってきたネットワークをいかし、地域の方々と従業員が継続的に交流して地域の課題を共有し、ともに解決に取り組むことで持続可能なコミュニティの再生を目指しています。福島県の南相馬市小高区では、鳥獣害を受けることが少ない唐辛子を栽培してブランド化を進める取り組みに従業員が参加し、定植、草取り、収穫、商品化作業に加わり、店舗での商品の販売に繋げるなど、地元の産業創生に向けた成果がうまれています。また、東北初のバナナの栽培に取り組む双葉郡広野町では、従業員が農作業に参加するとともに、収穫後に伐採されたバナナの幹を繊維化して活用する「バナナペーパー」づくりの工程を支援。できた繊維で広野小学校の子どもたちが紙漉きを行い、卒業証書へとうまれ変わりました。今後は産官学連携のもと、同ペーパーの商品化を目指して取り組んでいきます。

3月には、「にぎわい東北」と題した東北の優れた産品を販売するフェアを、東北や関東を中心とするエリアで開催し、お買物を通じて東北を応援したいというお客さまと生産者の方々とつなぐことで、産業の活性化、地域社会への貢献を目指します。

イオンはこれからも、地域の皆さまと手を携え、東北の創生に向けて取り組んでまいります。

にぎわい東北 —つなげよう、ふるさとのチカラ

[東北の創生に向けた4つの方針]

1. 事業を通じた地域産業の活性化
2. 雇用の創出と働きやすい環境づくり
3. 地域の未来を“ともにつくる”環境・社会貢献活動
4. 安全・安心にさせるまちづくり



【取り組み事例】

1. 事業を通じた地域産業の活性化

東北の生産者の方々とともに商品開発に取り組み、展開品目や売上の増大を目指します。また店舗でのフェアなどを通じ、東北の優れた製品の販路を拡大するとともに、全国のお客さまの東北を支援したいという想いをつなぎ、地域産業や経済の活性化を図ります。

■2020年3月実施 「にぎわい東北」フェア

<「にぎわい東北」>

▶東北6県の産品 最大約450品目を販売

- ・店舗：イオン東北（株） 124店舗
期間：3月12日（木）～15日（日）
- ・店舗：イオンリテール（株）北関東カンパニー 39店舗
期間：3月5日（木）～8日（日）
- ・店舗：イオンリテール（株）南関東カンパニー75店舗
期間：3月13日（金）～15日（日）



▶特別催事実施店舗 最大約700品目を販売

- ・岩手県の産品を中心に販売
期間：3月5日（木）～8日（日）
店舗：イオンリテール（株）イオン与野店（埼玉県）
- ・福島県の産品を中心に販売
期間：3月5日（木）～8日（日）
店舗：イオンリテール（株）イオンスタイルレイクタウン（埼玉県）
- ・宮城県の産品を中心に販売
期間：3月20日（金・祝）～23日（日）
店舗：イオンリテール（株）イオンスタイル板橋（東京都）

<三陸鉄道応援キャンペーン>

三陸鉄道リアス線の全線運航再開を記念し、岩手県内や沿線で親しまれている銘菓を三陸鉄道の車両型BOXに詰め合せ、限定販売。合わせて、釜石の地元商品の販売会を開催。

- ・期間：3月20日（金）
- ・店舗：イオンスーパーセンター（株）イオンスーパーセンター釜石店（岩手県）



■合同見本市・商談会の開催

イオングループ各社の従業員が東北地区のお取引先さまの商品への理解を深めるとともに、全国のバイヤーが一堂に会して商談を行い、東北産品の販路を全国、さらには世界に広げるための見本市を9月に実施します。本見本市は、2012年より毎年開催しているもので、今回が9回目となります。



約5,000人が来場(2019年)

2. 雇用の創出と働きやすい環境づくり

被災地域への出店による雇用の創出と、事業所内保育施設の設置による働きやすい環境づくりに取り組むことで、皆さまが地元で安心して働ける環境の実現を図ります。

■事業所内保育施設の設置

イオンの従業員、モールに出店いただいているテナントの従業員、さらに地域の方々もご利用いただける保育園としてイオンモール名取（宮城県）、イオンモールいわき小名浜（福島県）に、「イオンゆめみらい保育園」を開設しています。小さなお子さまをお持ちの方が安心して働ける環境づくりに貢献します。

※「イオンゆめみらい保育園」は、全国32カ所に設置、約870名のお子さまをお預かりできる環境を整えています。



イオンゆめみらい保育園
(イオンモールいわき小名浜)

3. 地域の未来を“ともにつくる”環境・社会貢献活動

地域の方々とともに環境・社会貢献活動に取り組み、東北の創生とまちづくりに寄与します。

■「イオン 心をつなぐプロジェクト」

2012年から2021年までの10年間に、のべ30万人の従業員によるボランティア活動、東北沿岸部での合計30万本の植樹活動を実施することを目標に掲げて取り組んできました。

ボランティア活動については、2018年8月に目標の30万人を突破し、2020年1月末時点では、35万9,679人が参加しています。本年は年間3万人のボランティア参加を見込んでいます。

植樹活動については、2019年3月に30万本の目標を達成し、2020年1月末時点の植樹本数は31万6,419本となりました。本年は、東北エリアの8カ所※で植樹を実施する予定です。

※主催のほか、共催、後援含む

プロジェクトの10年間において、2018年から最終年の2021年までの4年間は、これまでの活動内容を整理し、より充実させていく期間と位置付けています。プロジェクト終了後も持続可能なまちづくりに貢献し、次代に引き継がれる活動を育てることを目指し、「地域課題の解決への集中と実践」をテーマに取り組んでいます。

<植樹した木々の様子（海べの森植樹祭）>



2012年10月



2019年12月

プロジェクトの詳細は、WEBサイトでも公開しています。

<https://www.aeon.info/sustainability/kokoro/>

<イオン 未来共創プログラム>

「イオン 心をつなぐプロジェクト」のもと、2016年にスタートした「イオン 未来共創プログラム」では、「持続可能な地域共同体の再生」が被災地における社会的課題のひとつであると捉え、グループ各社が交流型の支援活動をスムーズに行えるよう促す実践研修を実施しています。現在、3県9地域で支援活動を進めています。

「イオン 未来共創プログラム」活動地・活動内容 (参加企業：2016～2019年の実績、五十音順)

活動地		内容	
岩手県	釜石市・大槌町	活動内容	地域産業の創出と障がい者の就労支援を目指し、「釜石ぶどう」と「大槌クレソン」の6次産業化に向けて支援
		参加企業	イオンリカー(株)、トップバリュコレクション(株)、(株)メガスポーツ(株)、イオンタウン(株)、(株)イオンイーハート、イオンエンターテイメント(株)、イオンリテール(株)
岩手県	遠野市米通地区	活動内容	限界集落地域の永続化に向け、無農薬・無肥料で育てた地域米を使った「どぶろく」の商品化を進め、持続可能な地域づくりを支援
		参加企業	マックスバリュ西日本(株)、イオン九州(株)イオン少額短期保険(株)、(株)イオンイーハート、イオンコンパス(株)、イオンスーパーセンター(株)(株)サンデー、(株)メガスポーツ
宮城県	気仙沼市大島	活動内容	大島の活性化に向け、島の新しい価値を掘りおこし、観光再生と「北限のゆず」などの地域ブランド化を支援
		参加企業	イオンプロダクトファイナンス(株)、R. O. U(株)、(株)ジーフット、イオンエンターテイメント(株)、イオン少額短期保険(株)、イオンバイク(株)、イオンモール(株)、イオンライフ(株)、イオンリテール(株)、ブランシェス(株)
	丸森町耕野地区	活動内容	原発事故による風評被害払拭と地元の産業再生に向け、耕野名産の「ころ柿」などのブランド化を支援
参加企業		イオン琉球(株)、イオンスーパーセンター(株)、イオン少額短期保険(株)、イオンディライト(株)、(株)イオンファンタジー、イオンプロダクトファイナンス(株)イオンモール(株)、(株)ツヴァイ	
宮城県	南三陸町	活動内容	森里海で生業を得る地域の方々が、環境を意識することで持続的な地域コミュニティを再生させようとする現場を支援
		参加企業	リフォームスタジオ(株)、まいばすけっと(株)、(株)生活品質科学研究所、(株)イオンイーハート、イオンコンパス(株)、イオンタウン(株)、イオンモール(株)、イオンリテール(株)、R. O. U(株)
福島県	浪江町・二本松市	活動内容	2017年に避難指示解除になった町のにぎわい復活を目指した支援
		参加企業	イオンリテール(株)、(株)光洋、(株)コックス(株)山陽マルナカ、
	南相馬市小高区	活動内容	避難指示解除後のゼロからのまちづくり活動を支援し、除染後の畑再生のとうがらしプロジェクトや、「あかりのイルミネーション」イベントへの参加、高校生とのお弁当開発プロジェクトを通じ、復興創生を支援
		参加企業	イオン九州(株)、イオンマーケット(株)、イオンアイビス(株)、イオンドットコム(株)、イオンファンタジー(株)、イオンフードサプライ(株)、マックスバリュ関東(株)、イオン北海道(株)、マックスバリュ北海道(株)、イオンリテール(株)、ミニストップ(株)、R. O. U(株)
	鏡石町	活動内容	風評被害の実態を学び、農業の再生をテーマに、地元の米の販売やブランド化支援、果物農家の6次産業化への支援を進め、多くの特産品を持つ「福島の食」を全国に届けることを支援
参加企業		イオン琉球(株)、イオンスーパーセンター(株)、マックスバリュ南東北(株)	
広野町・いわき市	活動内容	復興創生を進める産官学で、地元の産業再生をテーマに、「バナナペーパー」のブランド化など、地元産品を使ったものづくりへの支援	
	参加企業	ブランシェス(株)、(株)生活品質科学研究所、イオンクレジットサービス(株)、ダイエー(株)	

＜「イオン未来共創プログラム」による活動の一例：どぶろくの商品化＞

7世帯・15人、平均年齢72歳の方々がからす限界集落地域である岩手県遠野市米通地区では、地域の永続化に向けた挑戦を支援することをテーマに、地域の方々との交流を続けています。

2017年から米通自治会治会の方々とは企画検討を重ね、無農薬・無肥料で栽培した米を使った「米通どぶろく」の製造、ブランド化を支援しています。2019年には、約500本のどぶろくを製造し、本年も数百本を製造する予定です。また、このどぶろく用の水田の草取りや稲刈りなどに従業員が参加します。



「米通どぶろく」商品と完成発表会

■東北応援「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」

2012年から実施している東北応援「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」について、本年は3月9日（月）～11日（水）に実施します。全国のグループ各社約2,100店舗で、期間内にお客さまから投函いただいたお買い上げレシートの合計金額の1%を岩手県、宮城県、福島県の被災した子どもたちの生活・就学支援のための基金に寄付します。



■「イオン社会福祉基金※」より障がい者福祉施設に福祉車両を贈呈

労使一体となって運営する「イオン社会福祉基金」は、障がいをお持ちの方々の自立に向けた活動に役立てていただくため、福祉車両の贈呈などを行っています。

2019年は、福島県双葉郡浪江町の施設に福祉車両を贈呈しました。本年は、宮城県石巻市の施設に贈呈する予定です。



浪江町の施設への福祉車両贈呈式

※「イオン社会福祉基金」：全国の障がい者の方々の方々の自立と社会活動への参加促進、福祉の向上を図ることを目的として1977年に設立。グループ93社約70,000名が加盟しています（2020年1月時点）。労使双方が一人あたり毎月50円ずつ（合計100円）を積み立て、「福祉車両の贈呈」「ボランティア活動」を柱とした社会福祉活動を行っています。

■「石巻南浜津波復興祈念公園」での植樹

公益財団法人イオン環境財団は、「イオン心をつなぐプロジェクト」と共同で「石巻南浜津波復興祈念公園」で植樹を実施します。同公園では、国による設置計画のもと、災害から地域を守る海岸防災林と緑あふれる沿岸部の再生を目指し、2017年から10年にわたって植樹が行われます。同財団では昨年7,800本を植えており、2回目となる本年は、9月にボランティア800名の皆さまとともに復興への願いを込めて8,000本の苗木を植樹する予定です。

■福島県の子どもたちを自然あふれる環境へ招待

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、2016年から実施している「福島キッズ森もりプロジェクト」の23回目を2020年2月28日（金）から3月1日（日）に実施します。同プロジェクトは、震災以降外遊びの不足や自然体験不足が案じられる福島の子どもたちを森林セラピーの先進地として知られる「アフアの森」（長野県信濃町）に招待し、身体を動かし、自然に親しむ機会を提供する取り組みです。

■障がい者ものづくり応援募金

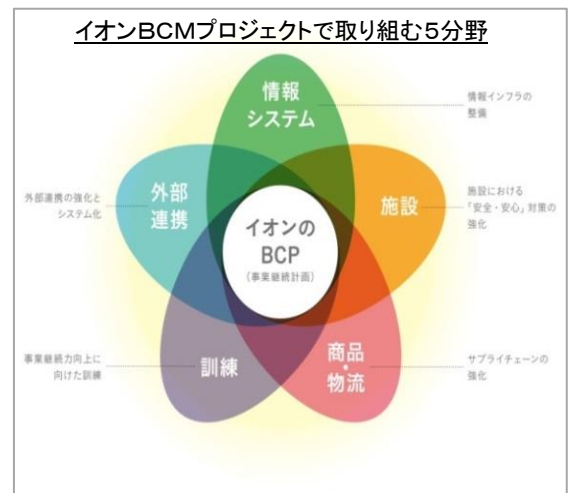
公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、東北の復興と活性化を支援するため、2013年に開始した「障がい者ものづくり応援募金」を、本年は2月8日（土）から3月8日（日）まで実施しています。寄せられた募金は、「認定NPO法人難民を助ける会（AAR Japan）」を通じ、岩手県、宮城県、福島県の障がい者就労支援事業所に届けられ、障がい者の方々のさらなる自立と社会参加の支援に役立てられています。

4. 安全・安心にくらせるまちづくり

東日本大震災の経験をもとに、防災体制を強化し、安全・安心にくらせるまちづくりに貢献します。

■イオングループBCM(事業継続マネジメント)プロジェクト

2016年に策定した「イオングループBCM 5カ年計画」のもと、「イオンBCMプロジェクト」を始動し、①情報インフラの整備 ②施設における安全・安心対策の強化 ③商品・物流におけるサプライチェーンの進化 ④事業継続能力向上に向けた訓練計画の立案と実行 ⑤外部連携の強化とシステム化の5つの分野に重点的に取り組んでいます。同年には内閣官房国土強靱化推進室が創設した「レジリエンス認証」の第1回取得団体としていち早く認証を取得しています。



■外部連携の強化

大規模災害時に支援活動を円滑に進め、早期復旧を実現することで地域社会へのさらなる貢献を果たすため、外部企業との連携も強化しています。

2019年11月には東北電力株式会社と「災害時における相互支援に関する協定」を締結しました。本協定のもと大規模災害発生時には、イオンは東北電力に対して支援物資の提供および復旧拠点設営用のスペースを貸与し、早期の電力復旧を支援します。また、東北電力は、イオンが設置した一時避難場所への電力供給を行います。両社が連携し、地域のお客さまのくらしを支えるライフラインとしての社会的責任を果たします。

■福島県双葉郡浪江町に「イオン浪江店」開店

2019年2月にイオンリテール(株)が浪江町と締結した「商業環境整備に関する覚書」のもと、浪江町の皆さまの帰還を促進するため、商業環境整備などに関して相互協力しています。同年7月には「イオン浪江店」をオープンし、町に戻り生活を再開された方々や、帰還を願いながらも離れた地域で生活続ける方々が浪江町での生活を取り戻すことができるよう、日々のくらしに必要な食品や日用品、医薬品などを取り揃え、同時に、イートインを設置し、地域の憩いの場としてあらゆる方が楽しめる店舗を目指しています。